令和２年 - No.84
9

寺子屋だより

※題字／森川芳聲

唐津市浜玉町浜崎・万葉の里公園内

歌碑のこころ

海原の　沖ゆく船を　帰れとか
領巾振らしけむ　松浦佐用姫

（ひれ）（まつら）（さよひめ）

玄界灘の沖を行く船に帰れと言ってか、肩にかけた領巾を手に取り一心に振ったという松浦佐用姫よ。

※詳しい解説は12頁に掲載しています

もくじ

2 巻頭言　真夏の夜の夢……山口　秀範
3 新連載　あれこれ思うこと①……古川　忠
4 「偉人レポート」……手柴　雅子
6 ミャンマーと日本⑧……守田　剛
7 「文化の戦士」という生き方……川村　雄規
8 昨今の教育事情雑感③……坂口　秀俊
9 新連載　信長、秀吉とバテレンの戦い①……廣木　寧
10 TERAKOYAふぉとれぽーと
11 〝あちこちde寺子屋〟のご案内
12 歌碑のこころ(13)　編集余録　余録の余録

巻頭言

真夏の夜の夢

代表世話役　山口 秀範

イギリスの夏

イギリスの文豪シェイクスピアは「沙吉比亜」の表記で我が国に紹介され、しばしば「沙翁」として親しまれました。そのシェイクスピアに「Midsummer night dream」という短編劇があります。この題名を坪内逍遥は「真夏の夜の夢」と邦訳し広く読まれました。しかしMidsummerは夏至の頃で、日本の真夏とは随分感覚が異なります。

かつてイギリス在住の頃、この作品の野外劇を鑑賞する機会に恵まれました。物語の想定は古代アテネの森で人々と妖精たちが入り乱れる幻想劇ですが、舞台を設えたロンドン郊外の緑豊かな公園からは、今にも妖精が現れそうで、しかも多神教の「島ケルト人」（イギリス人の遠い先祖）の自然観なども想起されて、印象深い一夜でした。

もっとも、ロンドンでの夏至前後は夏時間への切替えもあって夜十時近くまで明るく、長く暗い冬場を乗り切った開放感と相まって、爽やかなベストシーズンです。太陽がギラギラ照りつけ入道雲を見上げるという日本人が抱く「真夏」のイメージには程遠く、それもあって福田恆存は、従来に異を唱え「夏の夜の夢」と訳し、今ではそれが定着しているようです。

ナイジェリアの夏

もう四十年前のことですが、西アフリカのナイジェリアに三年半住みました。建設プロジェクトに従事したカチーナの町は北緯十三度、一年の大半は夏（乾季）で、四十℃を超える毎日ながら湿気が殆んどないため、日本の梅雨時や夏場に比べるとむしろ凌ぎやすいのです。

雨季は僅か三週間ですが、その間連日豪雨が続きます。その雨季の訪れを最初に感知するのは植物で、立ち枯れたように見えるバオバブの大木が、ある日うっすらと芽吹き始めます。やがて青空に雲が浮かび、その雲は次第に垂れこめて明日にも雨が降り出しそうなタイミングで、この地域に生息するすべての動物――犬猫、羊、山羊、ネズミ、トカゲ等々――は出産します。その翌日からの大雨で大きな窪みは池と化し、道の半分は川となって、それからの半年以上生きとし生けるものの命を育みます。実に感動的な大自然の営みを目の当たりにしました。

一方時期を限らず生殖行為に励み、この自然の摂理に従わないのが唯一「人間」です。万物の霊長と自らを誇っている我々ですが、放置していても成長する他の動物と違って、親の懸命な養育なしには真っ当に育たないという宿命を持っているのです。

吉田松陰の「士規七則」の第一条に「人と生まれては禽獣（きんじゅう）と異なる所以を知るべし」とあり、人として生きる道を自覚するのが成人の第一歩だと説かれています。この一文に触れる度に、アフリカの大地で繰り広げられる自然のドラマを思い出し、人間には「教育」が必須であると肝に銘じています。

今年の真夏の夢

未知のウイルス感染防止で鬱陶（うっとう）しい今夏、梅雨明けから例年にも増す猛暑に襲われています。こんな中で心地よい夢は中々見ることが出来そうにありません。そうして迎えたお盆の最中にこんな夢想が胸中を駆け巡りました。

戦後七十五年の靖国神社に総理大臣が正式参拝へと赴き、戦後の復興と、今日の平和と繁栄を築く礎となられた英霊に心からの感謝を捧げ、併せてこの疫病退散へのご加護を祈念することを堂々と世界に発信するのです。

反発するのは近隣の中韓二ヶ国だけでしょう。尖閣諸島を強奪しようと牙を剥く共産チャイナを逆撫（さかな）ですることに心配の向きもありましょうが、むしろ我が国家意思を明確に内外に示す好機が到来していると認識すべきでしょう。靖国参拝の直後に首相が自衛隊のヘリコプターで尖閣に上陸することが「実効支配」の最上策ではありませんか。ご本人が難しいなら、防衛大臣と環境大臣を派遣すれば良い。そしてそのまま自衛隊員数名を残して常駐とし、生態系調査と国境の島防衛の任務に当たらせれば一気に「勝負あり」となりましょう。

自衛隊の憲法上への位置づけや関連法規の整備など、必要な措置は事後に急げば何とかなる、要は政府として覚悟の問題ではないですか。

八月十五日は過ぎてしまいましたが、次のチャンスは靖国神社の秋の例大祭（十月中旬）もあります。首相周辺の心ある人士に是非ともご検討頂きたいものです。戦後レジーム一掃の狼煙（のろし）を上げることで最近の内閣支持率低迷も解消されましょう。

（突然の首相辞意表明により私の夢想は万事休すとなった。）

私にとってより切実な「真夏の夢」は、志明館小中学校の開設場所の確定です。小倉北区の小学校跡地活用プロジェクトが程なく公募されます。十年以上温めて来た教育再生の具体案が夢から実現へと向かう時機を、万全の準備を整えつつ待ちわびるこの頃です。引き続きご支援をお願い申し上げます。